

口腔ケアを通じて出会った緩和ケア病棟患者の笑顔

済生会松阪総合病院 口腔ケアセンター 歯科口腔外科 NST*

前川礼子, 松本由紀*, 田中千賀, 稲垣奈央子, 川口治奈, 日浦美和,
清水珠緒, 向出圭子, 鈴木康昭, 辻忠孝, 佐藤耕一.

【緒言】口腔ケアを通して、口腔内の衛生状態の改善、経口摂取を達成し、患者と家族の笑顔に出会う事ができた緩和ケア病棟患者を経験したので、その概要につき報告する。

【症例の概要】患者は87歳、女性、うつ病の既往歴がある。平成24年11月に自宅で転倒し、左大腿骨頸部を骨折、整形外科入院中に撮影したCTにて悪性脳腫瘍、余命2～3ヶ月との診断に至り、平成25年1月に緩和ケア病棟へ入院となった。本患者には入院前より訪問での口腔ケアが行われていたが、嘔吐反射が強く、本院で口腔ケアを開始した頃も、前歯部の清掃に限られていた。入院後は頻回に訪室し、2ヶ月が経過した頃には口腔内後方の口腔ケアが可能となった。緩和ケア病棟では経鼻経管栄養であり、胃瘻が検討されていたが、経口摂取の可能性が見えてきたために、義歯を作製した。義歯装着にて、毎日笑顔を見せながら、おいしそうに食事をするようになった。必要十分な経口摂取が継続されており、良好なALB値が維持されている。

【結語】入院前から口腔ケアが行われていたことが、本院での口腔ケアの取り組みを容易にした。これは地域支援の大切さを示唆するものであった。継続的な口腔ケア、患者、家族との信頼関係の構築、これらが経口摂取を導き、患者のQOLを向上させる一つの要因となった。患者に蘇った笑顔は、経口摂取だけでなく、生きる力をも取り戻したことを伝えてくれているように思われた。